

## 手弁当で訪ね歩いて 二〇年の熱意と知恵

**全** 国各地の特別養護老人ホームを訪ね歩く女性グループを知ったのは二十数年前のこと。

「特養ホームを良くする市民の会」と名乗り、入所定員・待機者数・ケアの実情等を詳細に調べる。その代表が著者である。

年期と根気に裏付けられ、希望チェックリストは目配り・配り十分だ。

部屋は個室か相部屋か、トイレは専用か共同か、ふろは規定

どおりの週二回かそれ以上か。それぐらいはだれでも気づく

が、パーマや髪染めは可能か、毎朝のブラッシングの有無、簡

単なお化粧はできるか。食べられなくなったときは「胃ろう」や「経管栄養」を希望するか、さらには死後の対応で最期に着る服や遺影はどうする？

「終の棲家」を選ぶのは人生最後の大事な事には違いない。

選び方のチェックリストも考えさせられる。介護保険制度上

の利用者負担は知っていても

「金銭管理費」や「買い物代行費」は幾らか。サービス内容は

見学・体験入所である程度はわかるはずだが、数カ月分の献立表をもらって、メニューの工夫、

口から食べられるソフト食の有無などを調べる。さらに職員は

座って食事介助しているか、食後の口腔ケアをやっているか。

著者の豊富な見聞記が随所に挿入され、よい例も悪い例も率直かつ公平に紹介されている。

“うるさいおばさん”ながら、熱意と誠意が特養ホーム関係者の信頼を得る秘訣なのだろう。

有料老人ホーム、グループホーム、ケアハウス等も含め基本的な知識・点検項目は身につけたい。ただし、本書どおりに個人がすべて調べるのは難しい。

そのために、信頼できる品質保証がほしい。

著者主宰のNPO法人「Uビジョン研究所」は日本で唯一、

日中や夜間の抜き打ち調査までやって「認証」を交付している。

いまや第三者評価のプロフェッショナルだが、市民運動の志を貫く歩みが二〇一〇年「エイボン女性大賞」という評価を得



### 問違ってはいけない 老人ホームの選び方

本間郁子 著  
あけび書房 本体1,400円＋税  
2011年8月刊

著者プロフィール  
(ほんま・いくこ) 図書館情報大学卒業。1992年お茶の水女子大学研究生(老年学)、97年同大学非常勤講師。2005年国際ソロプチミスト賞東京受賞、10年エイボン女性大賞受賞。現在、NPO法人特養ホームを良くする市民の会理事長などを務め、講演・執筆などで活躍。